

## 廿日市市景況調査報告

(2019年4～6月)

～全国の6月景況「足踏み状況。先行きは、不透明感増す中、慎重な見方が根強い」～

### 1. 全体の概要

業種別景況概要	全国(6月)		廿日市 4～6月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲11.9	▲11.3	▲17.4	▲23.9	▲46.2	▲30.8	10.0	20.0	▲18.8	▲43.8	0.0	▲28.6
採算	▲18.1	▲16.0	▲13.0	▲19.6	▲30.8	▲23.1	10.0	10.0	▲12.5	▲31.3	▲14.3	▲28.6
仕入単価	▲40.7	▲36.3	▲47.8	▲43.5	▲46.2	▲38.5	▲90.0	▲70.0	▲31.3	▲43.8	▲28.6	▲14.3
雇用人員	22.8	24.6	26.1	32.6	23.1	23.1	20.0	40.0	31.3	31.3	28.6	42.9
業況	▲18.9	▲19.5	▲17.8	▲28.3	▲38.5	▲30.8	11.1	10.0	▲12.5	▲50.0	▲28.6	▲28.6

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください

(対象169社 回答46社)

全産業合計の業況DIは、▲18.3(前月比▲1.2ポイント)。

インバウンド需要の堅調な動きに加え、都市部の民間工事を中心とする建設業が底堅く推移する一方、深刻な人手不足による受注機会の損失や人件費・外注費の増大、根強い消費者の節約志向、原材料費の高止まりによる収益圧迫が広く業況の押し下げ要因となった。また、米中貿易摩擦の影響に伴う半導体や産業用機械、自動車関連の不振や、世界経済の先行き不透明感の広がりを指摘する声は依然として多く聞かれ、中小企業の景況感には足元で鈍さが見られる。

個人消費の拡大やインバウンドを含む夏の観光需要拡大への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費税引上げの影響など不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢が続く。

#### 【廿日市市の景況】 ～「原材料費等高騰による製造業での景気減速目立つ」～

前年同期比では、全産業合計の総合業況DIが▲17.8と、前回調査(31年3月▲10.9)からマイナス幅が6.9ポイントと大幅増加した。

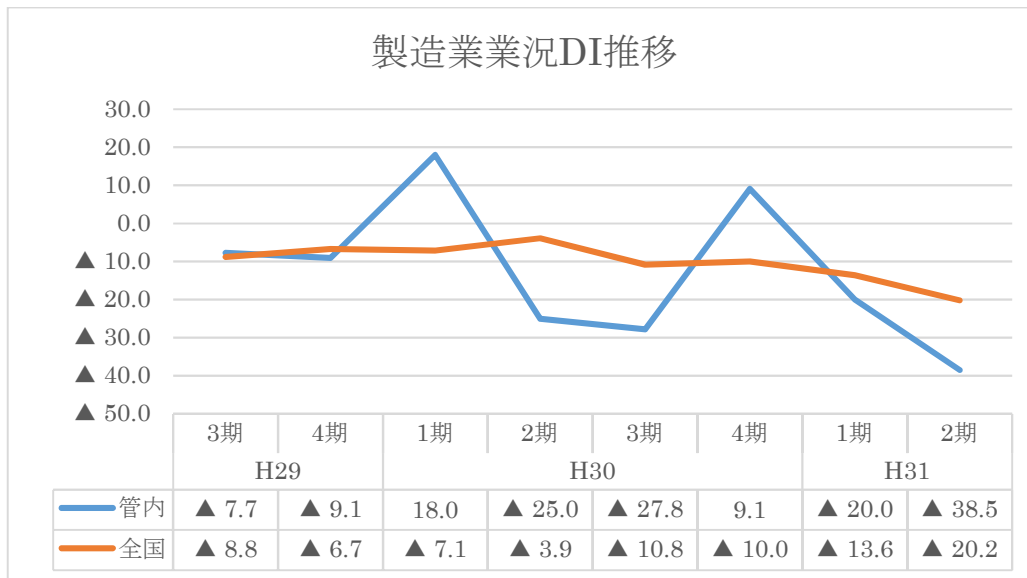
産業別の業況DIでは、前回ゼロ水準であったサービス業が大きくマイナスに転じた(0.0→▲28.6)。卸・小売業(0.0→▲12.5)や製造業(▲20.0→▲38.5)も悪化している。半面、建設業(▲25.0→11.1)では大きくプラス水準まで改善されている。向こう3ヵ月(4～6月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況DIが▲19.5と前回調査(30年12月▲19.1)とほぼ横ばいとなっている。

産業別の推移では、卸・小売業(0.0→▲50.0)やサービス業(0.0→▲28.6)でゼロ水準からマイナス値へ大幅に悪化し、製造業(▲21.4→▲30.8)でも若干悪化している。半面、建設業(▲42.9→10.0)は大幅マイナスからプラスへ改善する見通しとなった。

全産業の景況推移、水道光熱費や燃料代を含む「原材料・仕入価格上昇に伴う採算性」「人材不足・人件費増加傾向」などは全国・県内調査と同様の動きだが、前回調査に続き「飲食・サービス業」を中心とした緩やかな回復傾向が覗える。また、次期四半期に設備投資を予定していると答えた割合が比較的高かった。

## 2. 業種別推移

### 【製造業】



第1表 業種別生産指数（付加価値額ウェイト）

年・期・月	鉱工業	製造工業									電気機械工業(総合)	電気・情報通信機械工業	電子部品・デバイス工業	輸送機械工業	窯業・土石製品工業	
		鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	一般機械工業(総合)	はん用機械工業	生産用機械工業	業務用機械工業	化学工業	プラスチック製品工業						パルプ・紙・紙加工品工業
ウェイト	10000.0	9998.1	600.3	148.8	276.0	1605.0	417.4	1069.0	118.6	1372.0	280.9	1091.1	3327.2	202.0		
r 令和元年5月	103.0	103.0	104.3	88.8	80.7	137.1	122.2	136.8	109.2	103.7	90.6	105.7	97.6	101.6		
p 6月	102.3	102.3	104.0	96.2	71.9	100.3	60.3	113.6	92.7	108.2	102.8	109.2	112.1	97.8		
前月比(%)	7.1	7.1	1.6	▲ 2.5	▲ 8.8	74.1	432.3	▲ 0.9	32.3	▲ 0.5	▲ 7.7	2.3	▲ 11.9	▲ 2.2		

化学工業	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工品工業	繊維工業	食料品・たばこ工業	木材・木製品工業	ゴム製品工業	その他工業	家具工業	その他製品工業	鉱業	公益事業	産業総合	機械工業	自動車部門	造船部門
302.5	504.9	82.9	173.3	813.8	161.5	142.7	285.2	61.9	223.3	1.9	148.7	10148.7	6304.2	2585.4	781.9
112.5	116.7	113.7	117.3	76.0	77.4	92.9	91.9	99.5	87.5	92.9	105.0	103.0	109.0	97.4	82.0
98.1	114.3	97.4	100.5	69.7	71.4	103.2	112.6	119.9	106.2	96.1	93.2	102.1	108.5	114.5	94.1
96.7	111.1	113.8	100.3	65.6	69.0	99.8	95.1	118.3	89.6	99.2	93.4	109.4	121.5	104.5	81.5
▲ 1.4	▲ 2.8	16.8	▲ 0.2	▲ 5.9	▲ 3.4	▲ 3.3	▲ 15.5	▲ 1.3	▲ 15.6	3.2	0.2	7.1	12.0	▲ 8.7	▲ 13.4

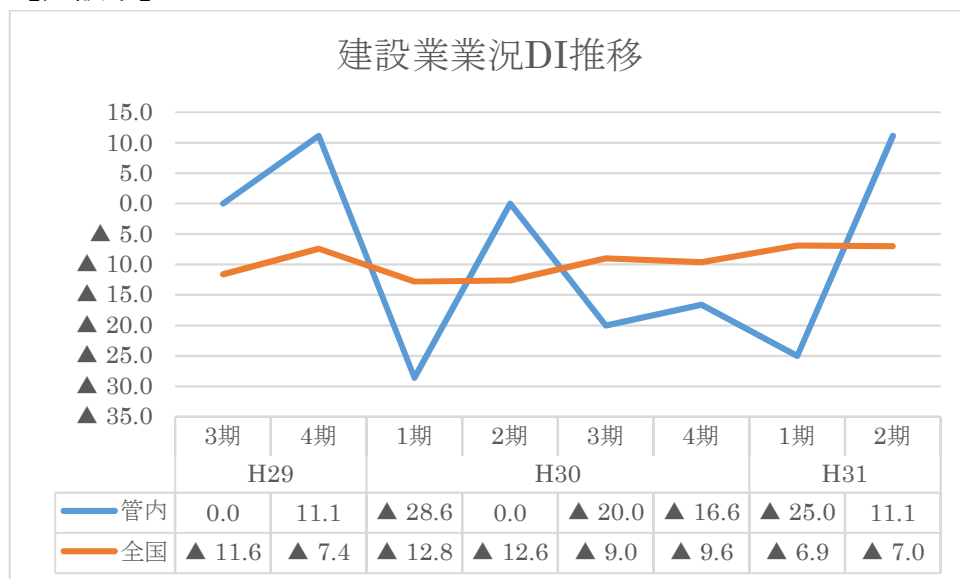
注 rは修正値, pは暫定値

《広島県鉱工業活動動向 業種別生産指数（季節調整済）》※広島県ホームページより

管内における製造業のDIは、前期▲20.0からさらに悪化し、▲38.5と悪化した。また、全国値においても▲13.6から▲20.2と悪化に転じている。これは、管内においても全国レベルでも近年では底となっている。これは、「原材料・仕入価格上昇に伴う採算性」「人材不足・人件費増加傾向」などによるものと思われ、依然として厳しい業況が感じられる。

広島県の業種別生産指数については、生産量は一部の業種のみ増加傾向で、全般的な生産指数は減少傾向にある。よって、今後も依然として厳しさが残る見込みである。

## 【建設業】



広島県 新設住宅着工戸数（速報値）													（令和元年6月分）			広島県土木建築局建築課		
													作成日			令和元年7月31日		
	合計	持家	貸家	給与	分譲	戸建	長屋建	共同建	木造	SRC	R C	鉄骨造	C B	その他				
県計	2,251	549	799	42	861	818	194	1,239	894	0	897	459	0	1				
廿日市市	62	26	24	0	12	38	6	18	60	0	1	1	0	0				

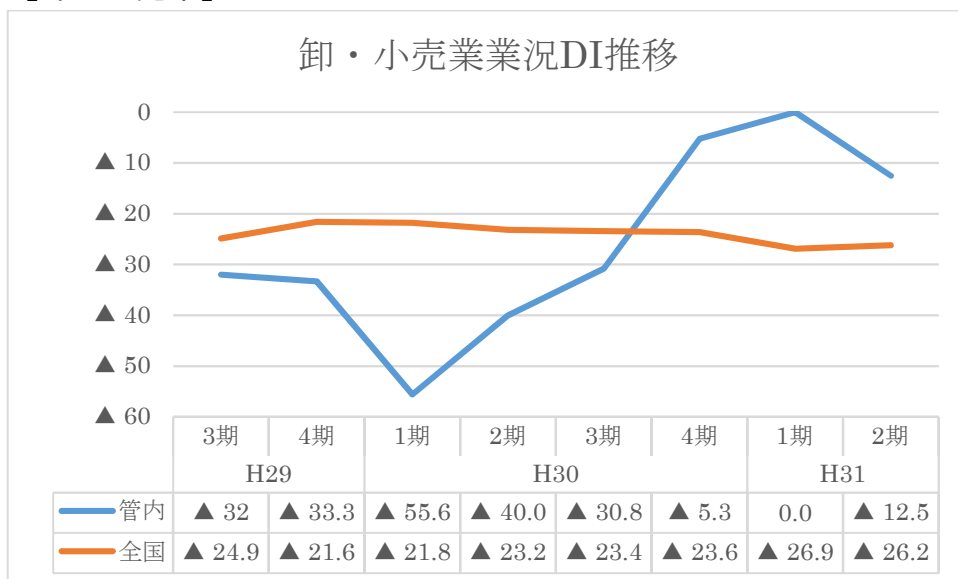
広島県 新設住宅着工戸数対前年比較表											（令和元年6月分）	
											（単位：戸，%）	
	合計	対前年比	持家	対前年比	貸家	対前年比	給与	対前年比	分譲	対前年比		
県計	2,251	64.1	549	28.6	799	26.6	42	121.1	861	191.9		
廿日市市	62	87.9	26	23.8	24	—	0	—	12	0.0		

《参考資料：広島県新設住宅着工戸数》 ※広島県ホームページより

管内の建設業の業況DIは、▲25.0から11.1と大きく改善した。一方で、全国値は前期▲6.9、今期▲7.0と安定している。建設業については、都市部における民間需要や災害普及などが影響していると思われる。

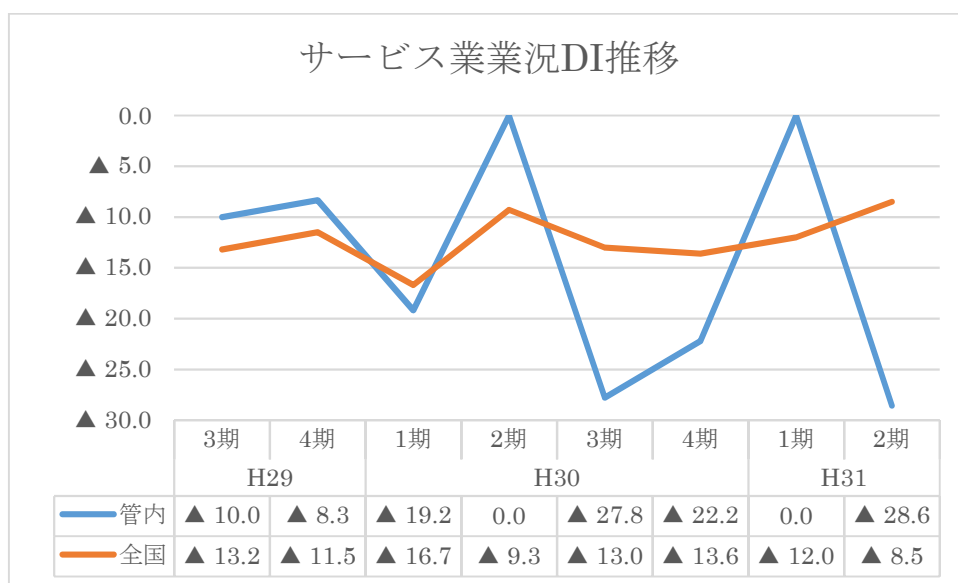
また、新設住宅着工件数であるが、令和元年6月までの累計を見てみると、広島県、廿日市市ともに、持家、貸家とも前年割れとなっており、今後に向けての動向は決して楽観はできない。

## 【卸・小売業】



管内の業況は前期の 0.0 から▲12.5 と悪化したが、全国値は前期の▲26.9 から▲26.2 とほぼ横ばいである。

## 【飲食・サービス業】



管内の業況であるが、前期の±0への改善から一転▲28.6へと悪化している。一方で全国値は▲12.0から▲8.5と前期に引き続いて若干の回復を見せている。

### 3. 今月のトピック

#### (1) 2019 年上半期ヒット商品番付

番付	東		番付	西	
	商品名	寸評		商品名	寸評
横綱	令和	5 月に平成から令和に改元、祝賀ムードで関連消費に沸く。	横綱	スマホペイ還元	ペイペイや LINE など各社が総額 500 億円以上の還元キャンペーンを展開し、ビックカメラなどに客が殺到
大関	10 連休	改元に伴う異例の長期休暇で、旅行、外食などに特需。鉄道や航空の利用者が増えた。	大関	任天堂「大乱闘スマッシュブラザーズ SPECIAL」	ゲームキャラ同士が戦う人気シリーズが「スイッチ」に初登場。4 か月で累計販売 1380 万本。
関脇	東京五輪チケット	購入に必要な ID の 1 次申し込み登録者は 12 年ロンドン大会、16 年リオ大会超えの 750 万人以上。	関脇	ダイナミックプライシング	需要に応じて価格変動する仕組み。USJ, J リーグの横浜 F マリノスなどが導入相次ぐ。
小結	「樹木希林」さん本	18 年 9 月の死去後、関連本相次ぐ。「一切なりゆき 樹木希林のことば」は発行部数 120 万部。	小結	翔んで「埼玉」	埼玉をからかう自虐ネタ満載の映画。SNS で話題になり興行収入は 37 億円。コラボ商品も続々。

《日経 MJ2019 年 6 月 5 日号 2019 年上期ヒット商品番付より》

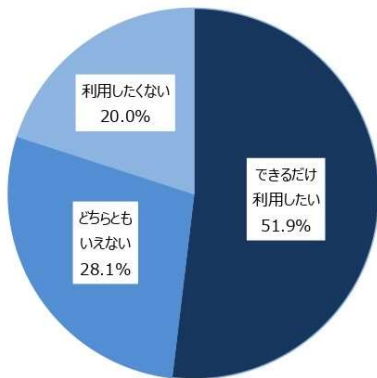
#### (2) 2019 年 3 月 外食に関する消費者調査結果（飲食店でのキャッシュレス決済の意向・利用状況）

2019 年 3 月日本政策金融公庫による外食に関する消費者調査によると、飲食店でキャッシュレス決済を積極的に利用したい消費者が 5 割という結果が出ている。

##### ①飲食店でのキャッシュレス決済の意向

- 飲食店での支払いは、キャッシュレス決済（クレジットカードや電子マネー、スマートフォンを用いた決済サービス）をできるだけ利用したいと回答した割合が過半数を占めた（図表 1）。
- 性年代別にみると、女性 60 代が 59.0%と最も高く、次いで、男性 20 代・30 代、女性 50 代が同数の 56.0%となっている（図表 2）。

表1 飲食店でのキャッシュレス決済の意向



図表2 飲食店でのキャッシュレス決済の意向【性別・性年代別】

Q：飲食店での支払いでは、キャッシュレス決済をできるだけ利用したいか

		n	とても そう 思う	そう 思う	まあ そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	全 く そ う 思 わ な い
全体		1,000	16.5	14.3	21.1	28.1	10.7	3.6	5.7
性別	男性	500	19.4	12.2	19.8	31.6	8.2	4.2	4.6
	女性	500	13.6	16.4	22.4	24.6	13.2	3.0	6.8
性年代	男性20代	100	23.0	9.0	24.0	26.0	10.0	3.0	5.0
	男性30代	100	33.0	14.0	9.0	28.0	4.0	7.0	5.0
	男性40代	100	16.0	13.0	21.0	34.0	9.0	3.0	4.0
	男性50代	100	13.0	11.0	17.0	41.0	9.0	3.0	6.0
	男性60代	100	12.0	14.0	28.0	29.0	9.0	5.0	3.0
	女性20代	100	13.0	9.0	25.0	27.0	11.0	3.0	12.0
	女性30代	100	15.0	18.0	17.0	24.0	19.0	0.0	7.0
	女性40代	100	11.0	17.0	22.0	34.0	9.0	5.0	2.0
女性50代	100	19.0	12.0	25.0	22.0	13.0	3.0	6.0	
女性60代	100	10.0	26.0	23.0	16.0	14.0	4.0	7.0	

■：全体+5%以上

できるだけ利用したい  
と回答した割合

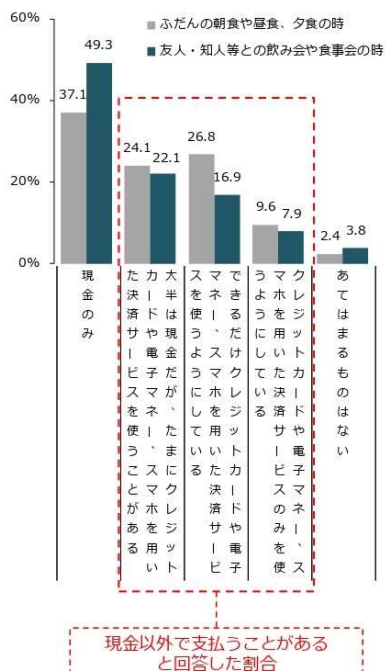
利用したくない  
と回答した割合

②飲食店を利用する際の支払方法

○飲食店を利用する際の支払方法について、「現金のみ」と回答した割合は、ふだんの朝食や昼食・夕食の時は37.1%、友人・知人等との飲み会や食事会の時は49.3%となった。一方、現金以外で支払うことがあると回答した割合は、それぞれ60.5%、46.9%となった（図表3）。

○性別・性年代別にみると、ふだんの朝食や昼食・夕食の時は、男性20代・30代および女性50代・60代で「現金のみ」と回答した割合が30%程度と他の性年代に比べて低く、現金以外で支払うことがあると回答した割合が高い。また、友人・知人等との飲み会や食事会の時は、女性より男性の方が現金以外で支払うことがあると回答した割合が高い（図表4）。

図表3 飲食店を利用する際の支払方法



図表4 飲食店を利用する際の支払方法【性別・性年代・外食頻度別】

		n	ふだんの朝食や昼食、夕食の時					友人・知人等との飲み会や食事会の時				
			現金のみ	現金以外で支払うことがある	現金のみ	現金以外で支払うことがある	現金のみ	現金以外で支払うことがある	現金のみ	現金以外で支払うことがある		
全体		1,000	37.1	60.5	24.1	46.9	49.3	46.9	16.9	7.9		
性別	男性	500	36.2	62.2	24.2	42.4	56.2	21.6	13.2	6.2		
	女性	500	38.0	58.0	24.0	49.8	21.6	13.2	6.2	2.8		
性年代	男性20代	100	30.0	59.0	29.0	40.0	24.0	22.0	11.0	3.0		
	男性30代	100	30.0	63.0	22.0	33.0	20.0	22.0	7.0	6.0		
	男性40代	100	41.0	54.0	24.0	23.0	3.0	46.0	18.0	8.0		
	男性50代	100	37.0	57.0	24.0	10.0	2.0	43.0	24.0	10.0		
	男性60代	100	43.0	51.0	19.0	28.0	9.0	1.0	38.0	23.0		
	女性20代	100	45.0	55.0	25.0	22.0	5.0	3.0	52.0	29.0		
	女性30代	100	42.0	54.0	24.0	8.0	2.0	60.0	25.0	10.0		
	女性40代	100	41.0	59.0	29.0	23.0	7.0	0.0	65.0	18.0		
女性50代	100	30.0	60.0	26.0	29.0	13.0	2.0	52.0	20.0			
女性60代	100	32.0	54.0	16.0	34.0	16.0	2.0	52.0	16.0			
外食頻度	朝食 Heavy	93	40.9	51.5	21.5	22.6	11.8	3.2	41.9	24.7		
	昼食 Heavy	235	34.5	54.5	24.7	28.5	10.2	2.1	38.7	27.2		
	夕食 Heavy	141	37.6	53.4	23.4	24.8	11.3	2.8	40.4	24.1		
	朝食 Light	907	36.7	54.4	24.4	27.2	9.4	2.3	50.1	21.8		
	夕食 Light	765	37.9	53.9	23.9	26.3	9.4	2.5	52.5	20.5		
夕食 Light	859	37.0	54.2	24.2	27.1	9.3	2.3	50.8	21.8			

■：全体+5%以上

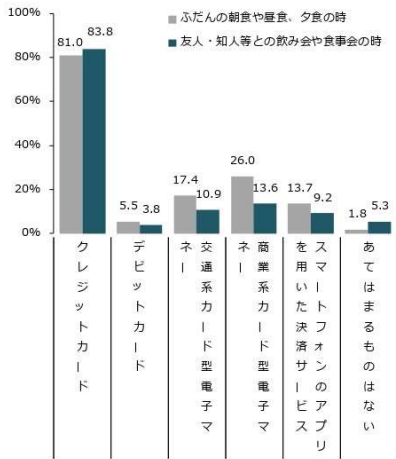
※外食頻度のHeavyは、週に2-3回以上外食する方、Lightは、週に1回以下外食する方を指す。

③飲食店で利用しているキャッシュレス決済

○飲食店で利用しているキャッシュレス決済は、ふだんの朝食や昼食・夕食の時、友人・知人等との飲み会や食事会の時ともに、「クレジットカード」と回答した割合が80%を超え、最も高い(図表5)。

○性年代別にみると、男性30代は、ふだんの朝食や昼食、夕食の時ににおいて、クレジットカード以外のキャッシュレス決済を利用している割合も高い。また、外食頻度別のヘビーユーザーにおいても、同様の傾向がみられる(図表6)。

図表5 飲食店で利用しているキャッシュレス決済【複数回答】



※飲食店を利用する際の支払方法について、現金以外で支払うことがあると回答した方に尋ねたもの。

図表6 飲食店で利用しているキャッシュレス決済【(性別・性年代・外食頻度別)・複数回答】

	n	ふだんの朝食や昼食・夕食の時						友人・知人等との飲み会や食事会の時						
		クレジットカード	デビットカード	ネットワーク型電子マネー(Suica等)	交通系ICカード型電子マネー(Edy等)	商業系ICカード型電子マネー(ANA Edy等)	スマートフォンアプリを利用した決済サービス(モバイルSuica等)	クレジットカード	デビットカード	ネットワーク型電子マネー(Suica等)	交通系ICカード型電子マネー(Edy等)	商業系ICカード型電子マネー(ANA Edy等)	スマートフォンアプリを利用した決済サービス(モバイルSuica等)	
全体	605	81.0	5.5	17.4	26.0	13.7	1.8	469	83.8	3.8	10.9	13.6	9.2	5.3
性別														
男性	304	78.6	7.6	21.4	27.6	19.4	2.0	264	80.7	5.3	12.1	14.8	14.0	5.7
女性	301	83.4	3.3	13.3	24.3	8.0	1.7	205	87.8	2.0	9.3	12.2	2.9	4.9
性年代														
男性20代	67	79.1	9.0	14.9	23.9	14.9	1.5	57	82.5	10.5	12.3	21.1	14.0	0.0
男性30代	64	81.3	12.5	25.0	39.1	35.9	0.0	49	77.6	2.0	14.3	18.4	26.5	10.2
男性40代	56	69.6	7.1	37.5	28.6	23.2	1.8	48	83.3	8.3	16.7	16.7	16.7	2.1
男性50代	61	75.4	3.3	18.0	26.2	13.1	4.9	54	77.8	3.7	11.1	13.0	7.4	9.3
男性60代	56	87.5	5.4	12.5	19.6	8.9	1.8	56	82.1	1.8	7.1	5.4	7.1	7.1
女性20代	52	84.6	1.9	19.2	23.1	9.6	0.0	44	88.6	0.0	13.6	13.6	2.3	4.5
女性30代	56	82.1	3.6	12.5	17.9	10.7	5.4	38	81.6	2.6	7.9	5.3	5.3	13.2
女性40代	59	76.3	3.4	16.9	33.9	6.8	0.0	33	78.8	0.0	12.1	27.3	3.0	3.0
女性50代	68	83.8	4.4	13.2	29.4	11.8	0.0	45	93.3	6.7	11.1	13.3	4.4	2.2
女性60代	66	89.4	3.0	6.1	16.7	1.5	3.0	45	93.3	0.0	2.2	4.4	0.0	2.2
外食頻度														
朝食 Heavy	52	71.2	9.6	25.0	23.1	17.3	0.0	48	81.3	4.2	14.6	12.5	8.3	2.1
昼食 Heavy	149	74.5	6.7	30.9	31.5	18.8	1.3	135	83.7	4.4	17.8	15.6	13.3	4.4
夕食 Heavy	84	75.0	8.3	26.2	29.8	20.2	1.2	78	82.1	6.4	15.4	16.7	12.8	2.6
朝食 Light	553	81.9	5.1	16.6	26.2	13.4	2.0	421	84.1	3.8	10.5	13.8	9.3	5.7
昼食 Light	456	83.1	5.0	12.9	24.1	12.1	2.0	334	83.8	3.6	8.1	12.9	7.5	5.7
夕食 Light	521	82.0	5.0	15.9	25.3	12.7	1.9	391	84.1	3.3	10.0	13.0	8.4	5.9

■: 全体+5%以上  
 ※外食頻度のHeavyは、週に2-3回以上外食する方、Lightは、週に1回以下外食する方を指す。  
 ※飲食店を利用する際の支払方法について、現金以外で支払うことがあると回答した方に尋ねたもの。

《2019年3月日本政策金融公庫による外食に関する消費者調査より》